

カトリック香里教会 復活節第二主日(いつくしみの主日)2021年4月11日

安その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」
-ヨハネ 20 章-

平和の使者

復活の主を信じた初代キリスト者は、一つに集まって、神の国を再現しようとしていました。もし、世界がその生き方に従えば、世界は一人も貧しい人がいなくなり、戦争もなくなるのです。なぜなら、人々の持っているものは、一つ所に集められ、必要に応じて各々に分配されるからです。

この分配の原理を正しく用いるリーダーを求めて、かつて奴隷状態に置かれた労働者階級からの解放を求めたのが、ユダヤ教から改宗したマルクスの思想でした。しかし、マルクスの誤算は、人間の本性に巢食う「エゴイズム」に考慮がなかったことでした。

一方、軍馬ではなく、ロバに乗ってこられたイエスがもたらした神の国建設の福音も、彼の無残な死で、敗北を迎えて終わったのですが、それは、イエスに誤算があったからではありません。イエスが意識してなされたことは、民の自由を奪わず、人間としてのご自身の「自我」を奪うことだったからです。

神が人類に自由を与えておられるのは、強制ではなく、あくまで本人の自由でご自身を選んでくれるのを待っておられるからです。

世界を創造された神は、創造の中に、完成に向かう秩序を置かれ、人類をその管理者とされたのです。初代キリスト者のように、正しく世界を用い管理するなら人類は創造の完成に到達し、地球の崩壊は免れるはずでした！

地球危機を迎えた人類が今、心しなければならぬのは、「人間の本性」が墮罪によって神の聖寵を失って自己保身と自己中心性の自我（エゴイズム）に墮していることに気づくことと、生活の中に富ではなく、神を取り戻すことです。完成を目指す人類の、この世における真の仕事は、自我を脱皮して神が与える聖霊に変容されることなのですから！！

弟子たちにとって、人生を賭けて師と仰いだイエスは、奇跡さえ起こせる力あるメシアでした。それなのに権力に捕らえられるまま、あっけなく十字架の死で終わってしまった敗北者イエスに心の扉を固く閉じていた弟子たちの真ん中に、主が「復活の主」となって戻ってこられたのは、自我による墮罪によって楽園を閉ざされた人類が、楽園に戻る道は「十字架の道」であると世に教えるためだったのです。

人類の真の敵は、自我の中に住んでその人をコントロールしている悪霊との戦いであることを、主イエスは悪霊に勝利した生き方を人類に示して、この世の使命を終え、その使命を弟子の私たちに継続させて、世に派遣なさるのでした。この派遣が狼の中の羊のようであっても、復活のイエスの聖霊を内に秘めた羊には、天を仰いで死の恐れがなく、殉教をも厭わない平和の使者となれるのです。

2021年4月11日 主任司祭 昌川 信雄



